

像」になろうとしていたのだと思います。自分を変えようとしてもがき、変わらない自分に落ち込んでいたのです。それっておかしな話だと、今では思

います。人はそれぞれ違うわけで、その人に合った、その人らしいリーダーシップというものがあるからです。なのに、自分とは性格も強みも違う人のリーダーシップを見て、それをそっくり真似しようとするのは、無理があったのです。

身近な例を思い出してみると、わかりやすいかもしれません。ぐいぐい引っ張っていくようなリーダーがいるかと思えば、静かでそれほど口数も多くないけれど、人がついていくようなリーダーもいませんか？ みんな、あり方は違えど、リーダーとしてチームに働きかけ、目標を達成しています。

「あるべき姿」に縛られずに、自分らしいリーダーシップがとれればいいのではないのでしょうか。

「自分なりのリーダーシップ」を見つける

私自身、改めて自分の経験を振り返ってみると、うまくチームをまとめられたと思うときでも、「引っ張るリーダーシップ」とは程遠いものでした。

一番に思い出すのは、2人の部下とのエピソード。クライアント企業にシステムを導入する、あるプロジェクトのマネージャーをしていたときのことです。システムの開発が予定通り進まず、プロジェクトが滞りなく完了できるか、私は不安で仕方ありませんでした。

当時は毎日忙しくて、すごく疲れているにもかかわらず、心配で夜も眠れなくて、ずっとイライラしていました。

そんな状態が続いたある朝のこと。

職場に行ったら、よほど不安や焦りが、私の顔に出ていたのでしょう。逆に部下2人から、「小川さん、大丈夫ですよ。きっとなんとかなりますから。落ち着いてください」と声をかけられ、励まされてしまったのです。

リーダーとして情けない話ですが、その2人とは、その後もいいチームを組むことができ、プロジェクトも無事終了させることができました。そして現在でも、彼らとは友人としての関係が続いています。

その後もいろんな方とチームを組みましたが、思えば私の場合、どちらかというと「部下に助けてもらう」タイプのリーダーであったように思います。本やテレビなどでみかけるようなカリスマリーダーに、あなたが必ずしもなる必要はありません。むしろ、自分らしさや自分の強みを把握し、それらを活かした「自分なりのリーダーシップ」を見つけることが大切です。